

能登半島地震で被災された卒業生の 活動が新聞で紹介されました

今年元日に発生した能登半島地震の被災地（輪島市）で、23期卒業生の水口美子さんが、仮設住宅を巡回するスタイルでの「朝市」を実施され、その様子が地元新聞で紹介されました。

水口さんは、震災後近所の公民館などで2ヵ月ほど避難生活を送られた後、自宅に戻って片付け作業を続ける中、一念発起され組合員の有志の皆さんと軽トラックに自家製野菜や加工食品を積んで、仮設住宅などを巡回されているとの事です。厳しい環境の中、本当にご苦労様です。

巡回朝市で元気を交換

それでも 能登に生きる

「久しぶり、元気だった。するスタイルで伝統的な『朝市』活動が、あやむぎ。20日、輪島市マリントワンの仮設住宅で、輪島朝市の組合員である水口美子さん（76）同市大野町が元気に朝市を開いた。約100年の歴史を誇る輪島市は、能登半島地震による大規模な被災で、数々の犠牲者を出しているが、被災者への支援活動が、あやむぎの活動の一環として行われている。

「久しぶり、元気だった。するスタイルで伝統的な『朝市』活動が、あやむぎ。20日、輪島市マリントワンの仮設住宅で、輪島朝市の組合員である水口美子さん（76）同市大野町が元気に朝市を開いた。約100年の歴史を誇る輪島市は、能登半島地震による大規模な被災で、数々の犠牲者を出しているが、被災者への支援活動が、あやむぎの活動の一環として行われている。」

「久しぶり、元気だった。するスタイルで伝統的な『朝市』活動が、あやむぎ。20日、輪島市マリントワンの仮設住宅で、輪島朝市の組合員である水口美子さん（76）同市大野町が元気に朝市を開いた。約100年の歴史を誇る輪島市は、能登半島地震による大規模な被災で、数々の犠牲者を出しているが、被災者への支援活動が、あやむぎの活動の一環として行われている。」

輪島市大野町 水口美子さん(76)



仮設住宅に出向く訪問朝市で野菜などを販売する水口さん
—輪島市マリントワンの朝市—

と語られた。水口さんは、震災後、自宅に戻って片付け作業を続ける中、一念発起され、組合員の有志の皆さんと軽トラックに自家製野菜や加工食品を積んで、仮設住宅などを巡回されているとの事です。厳しい環境の中、本当にご苦労様です。



文責：石塚

詳細は [こちら](#) をクリック！！